

湯前町高齢化における 安否確認システムの提案

A班

黒岩真幸 山本秀幸 瀬口大樹 杉本恭佑

一人暮らしの
高齢者が増加

全世界に

光ファイバ

有効活用

されていけない

2つの
システムを
提案

生存の確認

暮らしの確認

生存の確認

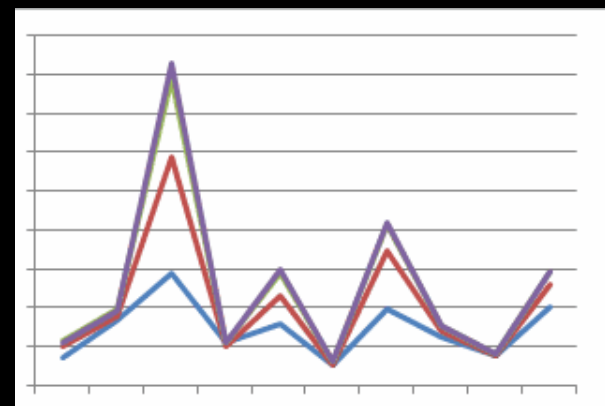
どんな

システム？

トイレセンサー



トイレの利用の
感知を送信



一日センサーに
反応がない

敬
警
言
報

効果

- **システムの利用効率化**
- **行動パターンの予測**
- **家族へのお知らせが可能**

課題

課題

・データの管理(責任団体)

・心筋梗塞等の緊急時に対応できない

暮らしの

確認

現狀

月に1、2回

有志による訪問

どんな

システム？



電話

**小・中学生のカリキュラムとして
地域の一人暮らし高齢者との電
話による会話を導入**

各家庭に光ファイバ

IP電話を利用

**朝の会で当番の人が電話
小・中学校各クラス担当5名**

$$6(\text{小})+3(\text{中})\times 5(\text{人})\times 5(\text{日})=225$$

→ほぼ全ての世帯をカバー

週一回の一人暮らし高齢者安否確認

+

子どもと高齢者の交流

劬果

地域を知る



- **高齢者が受動的なシステム**
- **高齢者が楽しみなシステム**
- **子どもに地域の課題を考えさせるシステム**

課題

課題

**小・中学校にカリキュラムとして
取り入れる際の壁**

**このシステムに賛成的でない
高齢者による小・中学生への暴
言・悪口等から起こる問題**

新しい「カタチ」

